

以前はカンメドベビーウォーマーを使っていましたが、国内販売が中止されてしまったことから、現在は簡易型の保温用ヒーターを使っています。多胎児の場合には当科でオリジナルに制作した通称「デカコット」にアトム社のインファントウォーマーに使われていた保温用のゲルマットを組み合わせたものを使っています。

直母外出前にはバイタルサインおよび体温チェック・胃内吸引確認を行い、異常がないことを確認します。搬送用コットはあらかじめ予熱しておき、頭部からの放熱予防のために帽子も用意しておきます。



図3-1 単胎用の搬送用コット
保温用ヒーターはカンメドベビーウォーマーを使っていましたが、現在は国内販売が中止されています。



図3-2 多胎児用の搬送用コット
特製の大型コットとアトム社製のインファントウォーマーで使われていたゲルマットタイプのヒーターを流用しています。

移動 (図3-3・図3-4)

当院ではNICUと産科病棟は離れているため移動中のモニタリングは必須です。産科病棟に到着後は赤ちゃんのネームプレートをダブル確認します。直母開始の前に授乳量確認のための体重を測定してから母の病室へ移動します。



赤ちゃんのダブル確認時、素肌が一時的に露出するので体温低下しないように確認はすばやく行います。

図3-3 移動①
GCUから移動するところです。当院のNICUと産科病棟は長い廊下を隔ており、ここを深夜も移動します。



産科病棟に到着したら産科・NICUの両スタッフにより名前のダブル確認と情報交換をします。NICUに戻る際にも同じ手順となります。

直母直前の体重計測です。この赤ちゃんは着衣込みで1700gでした。



産科病棟の長い廊下をさらに移動します。



お母さんの病室に到着です。

図3-4 移動②

直母の実際

直母開始前に前絞りをして乳頭を柔らかくしておきます (図3-5)。この赤ちゃんは在胎33週2日、1826gで出生し、直母外出は日齢3から開始しています (図3-6；写真は日齢5に撮影)。胃内チューブを併用しており、直母以外は経管栄養です。お母さんの母乳分泌はよいのですが、なかなかうまく飲みとれないようで、乳首をくわえたと思ったらすぐに眠ってしまいます。このときの直母量は0gでした。直母外出中にお父さんも面会にいらして、家族3人で過ごしていただきました。



図3-5 直母開始前の前絞り
直母の前にはスタッフによる手絞りをしておきます。

0
1
2-a
2-b
2-c
3
後期早産児が可能なかぎりお母さんと一緒にいられるようにするための工夫と注意点